

2025年5月16日

防衛大臣 中 谷 元 様

沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部
本部長 須 間 等

日本労働組合総連合会北海道連合会
会 長 須 間 等

北海道農民連盟
委員長 中 原 浩 一

在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に関する申し入れ

日頃から平和と安全の実演に向けてご尽力されていることに對し、心から敬意を表します。

さて、防衛省は4月25日、1997年から始まった在沖縄米海兵隊による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲実弾射撃訓練の分散・実施を、陸上自衛隊矢臼別演習場で6月8日から6月19日までの間に実施すると発表しました。

1995年、沖縄県で発生した少女暴行事件に対する県民の怒りを前に、米国は「即時撤退、最低限でも大幅縮小、そして地位協定の改定を論議」しました。しかし、日本政府は、それを望まず、代わりに「沖縄の負担軽減」として国内移転訓練を米国に要請しました。

当初、日本政府は国会で「地元合意が必要」「見切り発車はしない」と答弁し、これにゆえ、当時の堀達也北海道知事は「受け入れがたい」と道議会で述べ、道内の過半数を超える自治体が反対を表明しました。サハリン州知事からは道知事に対し、「北方領土に隣接する米軍演習は軍事的脅威」との親書も送られました。

私たち、連合北海道と北海道農民連盟は「対策本部」を設置し、政府に対する幾度もの申し入れや署名の提出、大規模な集会を開催するなど、反対の意思を表明してきました。

しかし、最終的に日本政府は国会答弁を覆し、「国策として、国の責任でやらせてもらう」と通告し、実弾移転訓練が強行され現在に至っています。

矢臼別演習場では米軍専用施設が拡充され、これまで「国内5カ所の持ち回りにより、5年に一度休む」計画で実施されていましたが、今回の演習で5年連続実施となり、まさに「演習の固定化」が進められています。

また、「夜間訓練は行わないでほしい」との地元の意向は完全に無視され、沖縄でも実施されていない夜間訓練が実施され、さらに、「沖縄と同質・同量」の程度をはるかに超える質・量の実弾演習がおこなわれており、地域の基幹産業である酪農の搾乳などに、多大な悪影響を与え、夜間の静粛を乱して住民生活に多大な被害をもたらしています。

更に、米軍基地が集中する沖縄では、性犯罪や殺人など米軍関係者による事件・事故が繰り返されています。2023年12月の少女への性暴力事件では、日米両政府がこれを隠蔽しようとした事実

も発覚しました。米国政府は綱紀肅正を誓っていますが、依然として実効が伴っていません。日米両政府に強く抗議するとともに再発防止に向けて厳正かつ実効性ある対応が必要であります。

改めて私たちは、在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に断固反対します。

第一に、ロシア政府は、北方領土を含む北海道東方海域で各国船舶の「無害通航権」を4月末まで停止するとの航行警報を発し、北方四島のうち国後島、色丹島、歯舞群島の3島の海域を含む北海道の目前で射撃訓練を行うと通告するなど、北方領土の軍事拠点化と実効支配を強化しています。

このような中、北方領土に隣接する北海道・矢臼別での米海兵隊の実弾演習は、ロシアにより平和条約交渉の中断が発表されたとはいえ、領土問題解決という国民の悲願を政府自身が、さらに大きく後退させるものです。

第二に、全国5カ所で強行される「沖縄の県道104号線越え実弾射撃訓練の国内移転」は、沖縄の負担・米軍基地問題の抜本的な解決とはならず、危険と公害の地方分散・拡大・固定化であり、日本全体を米軍基地化することにつながると考えます。

第三に、私たちは、沖縄の「痛み」を分かち合うことを否定しません。しかし、米軍基地の集中による沖縄県民に強いられる負担を解決する唯一の道は、日米地位協定の抜本的な見直しと、在日米軍基地の整理・縮小しかありません。

このようなことから、私たちは、「沖縄の負担軽減」という名の下で過去22回も強行されてきた在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に断固反対し、以下の事項を申し入れます。

記

1. 申し入れ事項

(1) 在沖縄米海兵隊の矢臼別における実弾移転演習を中止すること。

<以下、実施される場合>

(2) 沖縄でも実施されていなかった夜間訓練は、「同質・同量」との約束に違反するものであり、地元住民をはじめとした北海道民の総意に沿って行わないこと。

(3) 地域住民の不安や懸念を解消するため、十分な情報提供を行うこと

(4) これまでの移転演習によって、「沖縄の負担」がどの分野でどれぐらい「軽減」されたのか、具体的に明らかにすること。

(5) 訓練に参加する米軍人の規律維持に努めること。

以 上

2025年5月27日

北海道知事

鈴木直道様

沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部

本部長 須間 等

日本労働組合総連合会北海道連合会

会長 須間 等

北海道農民連盟

委員長 中原 浩一

在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に関する申し入れ

貴職におかれましては、北海道政の推進にご尽力されていることに対し、心から敬意を表します。

さて、防衛省は4月25日、1997年から始まった在沖縄米海兵隊による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲実弾射撃訓練の分散・実施を、陸上自衛隊矢臼別演習場で6月8日から6月19日までの間に実施すると発表しました。

1995年、沖縄県で発生した少女暴行事件に対する県民の怒りを前に、米国は「即時撤退、最低限でも大幅縮小、そして地位協定の改定を論議」しました。しかし、日本政府は、それを望まず、代わりに「沖縄の負担軽減」として国内移転訓練を米国に要請しました。

当初、日本政府は国会で「地元合意が必要」「見切り発車はしない」と答弁し、これに応え、当時の堀達也北海道知事は「受け入れがたい」と道議会で述べ、道内の過半数を超える自治体が反対を表明しました。サハリン州知事からは道知事に対し、「北方領土に隣接する米軍演習は軍事的脅威」との親書も送られました。

私たち、連合北海道と北海道農民連盟は「対策本部」を設置し、政府に対する幾度もの申し入れや署名の提出、大規模な集会を開催するなど、反対の意思を表明してきました。

しかし、最終的に日本政府は国会答弁を覆し、「国策として、国の責任でやらせてもらう」と通告し、実弾移転訓練が強行され現在に至っています。

矢臼別演習場では米軍専用施設が拡充され、これまで「国内5カ所の持ち回りにより、5年に一度休む」計画で実施されていましたが、今回の演習で5年連続実施となり、まさに「演習の固定化」が進められています。

また、「夜間訓練は行わないでほしい」との地元の意向は完全に無視され、沖縄でも実施されていない夜間訓練が実施され、さらに、「沖縄と同質・同量」の程度をはるかに超える質・量の実弾演習がおこなわれており、地域の基幹産業である酪農の搾乳などに、多大な悪影響を与え、夜間の静粛を乱して住民生活に多大な被害をもたらしています。

更に、米軍基地が集中する沖縄では、性犯罪や殺人など米軍関係者による事件・事故が繰り返され

ています。2023年12月の少女への性暴力事件では、日米両政府がこれを隠蔽しようとした事実も発覚しました。米国政府は綱紀肅正を誓っていますが、依然として実効が伴っていません。日米両政府に強く抗議するとともに再発防止に向けて厳正かつ実効性ある対応が必要であります。

改めて私たちは、在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に断固反対します。

第一に、ロシア政府は、北方領土を含む北海道東方海域で各国船舶の「無害通航権」を4月末まで停止すると航行警報を発し、北方四島のうち国後島、色丹島、歯舞群島の3島の海域を含む北海道の目前で射撃訓練を行うと通告するなど、北方領土の軍事拠点化と実効支配を強化しています。

このような中、北方領土に隣接する北海道・矢臼別での米海兵隊の実弾演習は、ロシアにより平和条約交渉の中断が発表されたとはいえ、領土問題解決という国民の悲願を政府自身が、さらに大きく後退させるものです。

第二に、全国5カ所で強行される「沖縄の県道104号線越え実弾射撃訓練の国内移転」は、沖縄の負担・米軍基地問題の抜本的な解決とはならず、危険と公害の地方分散・拡大・固定化であり、日本全体を米軍基地化することにつながると考えます。

第三に、私たちは、沖縄の「痛み」を分かち合うことを否定しません。しかし、米軍基地の集中による沖縄県民に強いられる負担を解決する唯一の道は、日米地位協定の抜本的な見直しと、在日米軍基地の整理・縮小しかありません。

貴職におかれましては、平和を願う道民の意向を踏まえ、矢臼別における沖縄米軍の実弾移転演習について、以下の事項を政府へ求めるよう申し入れます。

記

1. 申し入れ事項

- (1) 道も「受け入れがたい」としてきた矢臼別演習場における米軍実弾移転演習が、在日米軍基地の整理縮小もなされないまま20年以上も実施されていることに道としての見解を示すこと。
- (2) 米軍演習の固定化は、危険と公害の分散・拡大・常態化であることから、演習反対の意思を示すとともに本演習の中止を求めること。
- (3) 当初の「沖縄での演習と同質・同量」という政府の約束に反し、沖縄では実施していない夜間訓練が繰り返されてきた経緯を踏まえ、訓練計画の白紙撤回を強く求めること。
- (4) 在日米軍の整理縮小と「日米地位協定」の見直しについて、国に強く働きかけること。
- (5) これまでの移転演習によって、「沖縄の負担」がどの分野でどれくらい「軽減」されたのかの検証を国に求めること。
- (6) 訓練に参加する米軍人の規律維持に努めること。

以 上

2025年5月27日

在札幌米国総領事館

総領事 マーク・ウェベルス 様

沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部

本部長 須間 等

日本労働組合総連合会北海道連合会

会長 須間 等

北海道農民連盟

委員長 中原 浩一

在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習に関する申し入れ

貴職におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。

さて、防衛省は4月25日、1997年から始まった在沖縄米海兵隊による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲実弾射撃訓練の分散・実施を、陸上自衛隊矢臼別演習場で6月8日から6月19日までの間に実施すると発表しました。

1995年、沖縄県で発生した少女暴行事件に対する県民の怒りを前に、米国は「即時撤退、最低限でも大幅縮小、そして地位協定の改定を論議」しました。しかし、日本政府は、それを望まず、代わりに「沖縄の負担軽減」として国内移転訓練を米国に要請しました。

当初、日本政府は国会で「地元合意が必要」「見切り発車はしない」と答弁し、これに応え、当時の堀達也北海道知事は「受け入れがたい」と道議会で述べ、道内の過半数を超える自治体が反対を表明しました。サハリン州知事からは道知事に対し、「北方領土に隣接する米軍演習は軍事的脅威」との親書も送られました。

私たち、連合北海道と北海道農民連盟は「対策本部」を設置し、政府に対する幾度もの申し入れや署名の提出、大規模な集会を開催するなど、反対の意思を表明してきました。

しかし、最終的に日本政府は国会答弁を覆し、「国策として、国の責任でやらせてもらう」と通告し、実弾移転訓練が強行され現在に至っています。

矢臼別演習場では米軍専用施設が拡充され、これまで「国内5カ所の持ち回りにより、5年に一度休む」計画で実施されていましたが、今回の演習で5年連続実施となり、まさに「演習の固定化」が進められています。

また、「夜間訓練は行わないでほしい」との地元の意向は完全に無視され、沖縄でも実施されてい

ない夜間訓練が実施され、さらに、「沖縄と同質・同量」の程度をはるかに超える質・量の実弾演習がおこなわれており、地域の基幹産業である酪農の搾乳などに、多大な悪影響を与え、夜間の静粛を乱して住民生活に多大な被害をもたらしています。

更に、米軍基地が集中する沖縄では、性犯罪や殺人など米軍関係者による事件・事故が繰り返されています。2023年12月の少女への性暴力事件では、日米両政府がこれを隠蔽しようとした事実も発覚しました。米国政府は綱紀粛正を誓っていますが、依然として実効が伴っていません。日米両政府に強く抗議するとともに再発防止に向けて厳正かつ実効性ある対応が必要です。

以上をふまえ、以下の事項を申し入れます。

記

1. 申し入れ事項

- (1) 地域住民の不安や懸念を解消するため、十分な情報提供を行うこと。
- (2) 訓練に当たり、地域住民の安全・安心の確保を図るとともに、騒音対策を徹底すること。
- (3) 沖縄でも実施されていなかった夜間訓練は、「同質・同量」との約束に違反するものであり、地元住民をはじめとした北海道民の総意に沿って行わないこと。
- (4) 訓練に参加する米軍人の規律維持に努めること。

以 上

2025年9月4日

防衛大臣
中 谷 元 様

日米共同訓練の規模縮小と オスプレイ参加に関する申し入れ

日本労働組合総連合会北海道連合会
会 長 須 間 等

北海道農民連盟
委員長 中 原 浩 一

日頃から、平和と安全の実現に向けてご尽力されていることに対し、心より敬意を表します。

防衛省は5日、9月11日から15日間、日米両部隊で約4,850人が参加する日米共同訓練(レゾリュート・ドラゴン)を実施し、その訓練には沖縄米海兵隊オスプレイの訓練を組み込むことを発表しました。

オスプレイは構造が複雑で操縦も難しい機体であり、国内外で何度も事故を起こしています。

2023年には鹿児島県の屋久島沖でオスプレイが墜落し乗員8人全員の尊い命が犠牲となりました。

このオスプレイ墜落事故は日本国内で初めて乗員の死者を出した墜落事故です。もし市街地などに墜落していれば、多くの住民が巻き添えになる可能性があります。

また、この事故について異常が起きた理由を明らかにしていません。

徹底した事故原因の究明と再発防止策を講じぬままでの飛行は認められません。日本国政府は国民の生命を守るべき主権国家として当然の義務をないがしろにしています。

私たちは、この大規模な日米共同訓練、さらに墜落事故を繰り返し、根本的な原因が解決されないオスプレイの参加に強く反対し中止を求めます。

まず、北方領土が隣接する北海道において、上陸強襲を任務とする米海兵隊を含む四千人を超える日米両部隊が参加する日米共同訓練は、隣国ロシアを刺激し、「領土問題の解決」という私たちの悲願を大きく後退させます。

さらに、オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返しており、ひとたび墜落事故が起これば道民の生命と財産を奪います。米軍自らが飛行停止としていたオスプレイが人口密集地である丘珠駐屯地をはじめとする道内の自衛隊施設を使用し、広域にわたり道内で訓練を展開するとしています。沖縄において明らかなように、日米地位協定をたてに昼夜を問わず、日常的に日本の航空法が禁止する低空飛行を行うオスプレイの騒音が市民生活に与える影響は甚大であり、道民の平穏な日常生活に多大な被害をもたらします。防衛省がそのようなオスプレイの飛行時間や経路を「米軍の機密」を理由に公開しない中での参加を断じて認めるわけにはいきません。

私たちは、北海道の平和と軍縮、そして、北方領土問題の解決を強く願う立場から、日米共同訓練の規模縮小を求めるとともに、墜落事故を繰り返し騒音や環境破壊につながるオスプレイの参加に強く反対します。

つきましては、道民の安全と北海道の平和を守る立場から、以下の事項により政府への対応を強められるよう要請いたします。

1. 日米共同訓練のオスプレイ運用を中止すること。
2. オスプレイを運用せざるを得ない場合は、飛行情報を早期に公開するとともに、飛行自体を最小限にとどめること。
3. オスプレイの騒音測定を行い、環境基準を超える場合は直ちに飛行訓練を中止すること。また低空飛行・夜間飛行は行わないこと。
4. 万が一の事故による被害補償、事故への対応の迅速な体制を確立するとともに、関係自治体と対応体制を構築すること。
5. 日米共同訓練の規模を縮小すること。
6. 日米地位協定を見直し、国内法を遵守するものとする。

以 上

2025年9月4日

北海道知事

鈴木直道様

日米共同訓練の規模縮小と オスプレイ参加に関する申し入れ

日本労働組合総連合会北海道連合会

会長 須間 等

北海道農民連盟

委員長 中原 浩一

貴職におかれましては、北海道の発展と道民生活の向上にむけ、益々ご尽力のことと存じます。

防衛省は5日、9月11日から15日間、日米両部隊で約4,850人が参加する日米共同訓練(レゾリュート・ドラゴン)を実施し、その訓練には沖縄米海兵隊オスプレイの訓練を組み込むことを発表しました。

オスプレイは構造が複雑で操縦も難しい機体であり、国内外で何度も事故を起こしています。

2023年には鹿児島県の屋久島沖でオスプレイが墜落し乗員8人全員の尊い命が犠牲となりました。

このオスプレイ墜落事故は日本国内で初めて乗員の死者を出した墜落事故です。もし市街地などに墜落していれば、多くの住民が巻き添えになる可能性があります。

また、この事故について異常が起きた理由を明らかにしていません。

徹底した事故原因の究明と再発防止策を講じぬままでの飛行は認められません。日本国政府は国民の生命を守るべき主権国家として当然の義務をないがしろにしています。

私たちは、この大規模な日米共同訓練、さらに墜落事故を繰り返し、根本的な原因が解決されないオスプレイの参加に強く反対し中止を求めます。

まず、北方領土が隣接する北海道において、上陸強襲を任務とする米海兵隊を含む四千人を超える日米両部隊が参加する日米共同訓練は、隣国ロシアを刺激し、「領土問題の解決」という私たちの悲願を大きく後退させます。

さらに、オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返しており、ひとたび墜落事故が起これば道民の生命と財産を奪います。米軍自らが飛行停止としていたオスプレイが人口密集地である丘珠駐屯地をはじめとする道内の自衛隊施設を使用し、広域にわたり道内で訓練を展開するとしています。沖縄において明らかなように、日米地位協定をたてに昼夜を問わず、日常的に日本の航空法が禁止する低空飛行を行うオスプレイの騒音が市民生活に与える影響は甚大であり、道民の平穏な日常生活に多大な被害をもたらします。防衛省がそのようなオスプレイの飛行時間や経路を「米軍の機密」を理由に公開しない中での参加を断じて認めるわけにはいきません。

私たちは、北海道の平和と軍縮、そして、北方領土問題の解決を強く願う立場から、日米共同訓練の規模縮小を求めるとともに、墜落事故を繰り返し騒音や環境破壊につながるオスプレイの参加に強く反対します。

つきましては、北海道知事におかれましては、道民の安全と北海道の平和を守る立場から、以下の事項により政府への対応を強められるよう要請いたします。

1. 共同訓練のオスプレイ運用に反対し、中止するよう国に求めること。
2. 共同訓練のオスプレイ運用に関する、情報公開収集と公開に努めること。
3. 騒音測定を行うこと。また、被害補償、事故への対応の迅速な体制を確立するよう国と協議するとともに関係自治体と対応体制を構築すること。
4. 共同訓練の規模縮小を国に求めること。
5. 在日米軍の規模縮小と日米地位協定の見直しについて、国に強く働きかけること。

以 上

2025年9月1日

在札幌アメリカ合衆国総領事館
首席領事 ユキ・近藤シャー 様

日米共同訓練の規模縮小と オスプレイ参加に関する申し入れ

日本労働組合総連合会北海道連合会
会 長 須 間 等

北海道農民連盟
委員長 中 原 浩 一

貴職におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

防衛省は5日、9月11日から15日間、日米両部隊で約4,850人が参加する日米共同訓練(レゾリュート・ドラゴン)を実施し、その訓練には沖縄米海兵隊オスプレイの訓練を組み込むことを発表しました。

オスプレイは構造が複雑で操縦も難しい機体であり、国内外で何度も事故を起こしています。

2023年には鹿児島県の屋久島沖でオスプレイが墜落し乗員8人全員の尊い命が犠牲となりました。

このオスプレイ墜落事故は日本国内で初めて乗員の死者を出した墜落事故です。もし市街地などに墜落していれば、多くの住民が巻き添えになる可能性があります。

また、この事故について異常が起きた理由を明らかにしていません。

徹底した事故原因の究明と再発防止策を講じぬままでの飛行は認められません。日本国政府は国民の生命を守るべき主権国家として当然の義務をないがしろにしています。

私たちは、この大規模な日米共同訓練、さらに墜落事故を繰り返し、根本的な原因が解決されないオスプレイの参加に強く反対し中止を求めます。

まず、北方領土が隣接する北海道において、上陸強襲を任務とする米海兵隊を含む四千人を超える日米両部隊が参加する日米共同訓練は、隣国ロシアを刺激し、「領土問題の解決」という私たちの悲願を大きく後退させます。

さらに、オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返しており、ひとたび墜落事故が起これば道民の生命と財産を奪います。米軍自らが飛行停止としていたオスプレイが人口密集地である丘珠駐屯地をはじめとする道内の自衛隊施設を使用し、広域にわたり道内で訓練を展開するとしています。沖縄において明らかなように、日米地位協定をたてに昼夜を問わず、日常的に日本の航空法が禁止する低空飛行を行うオスプレイの騒音が市民生活に与える影響は甚大であり、道民の平穏な日常生活に多大な被害をもたらします。防衛省がそのようなオスプレイの飛行時間や経路を「米軍の機密」を理由に公開しない中での参加を断じて認めるわけにはいきません。

私たちは、北海道の平和と軍縮、そして、北方領土問題の解決を強く願う立場から、日米共同訓練の規模縮小を求めるとともに、墜落事故を繰り返し騒音や環境破壊につながるオスプレイの参加に強く反対します。

つきましては、平和を願う国民・道民の意向を尊重し、英断を持って、日米共同訓練の規模縮小とオスプレイ運用の中止を、米政府に伝達することを求めます。

以 上

被爆80年 北海道高校生被爆ピアノコンサート

各公演／

【1日目昼公演】

日 時／2025年3月29日(土) ストリートピアノ 12:00～12:50

コンサート開演 13:00 終了 14:30

会 場／Sapporo55ビル 「インナーガーデン」

来場数／110人

内 容／①主催者挨拶 皆川舞奈実行委員長

②北海道被爆者協会挨拶 廣田凱則会長

③詩の朗読 高校生実行委員会

④被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

⑤高校生による演奏

北星学園女子中等高等学校

⑥プロの演奏 ピアノ・豊口健さん、サックス・池田篤さん

⑦合唱 来場者、北星学園女子中等高等学校、札幌日本大学中学高等学校
高校生実行委員会

【1日目夜公演】

日 時／2025年3月29日(土) ストリートピアノ 16:00～16:50

コンサート開演 17:00 終了 18:30

会 場／札幌駅前通地下歩行空間 北三条交差点広場

来場数／150人

内 容／①主催者挨拶 皆川舞奈実行委員長

②被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

③高校生による演奏

北星学園女子中等高等学校

④プロの演奏 ピアノ・豊口健さん、サックス・池田篤さん

⑤合唱 来場者、北星学園女子中等高等学校、札幌日本大学中学高等学校
高校生実行委員会

【2日目昼公演】

日 時／2025年3月30日(日) ストリートピアノ 9:30～10:30、11:50～12:30

13:50～14:20

コンサート1ST開演 11:00 終了 11:50、2ST開演 12:50 終了 13:50

会 場／コープさっぽろルーシー店

来場数／250人

内 容／①主催者挨拶 皆川舞奈実行委員長

②被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

③高校生による演奏

北星学園女子中等高等学校

④プロの演奏 ピアノ・豊口健さん、サックス・池田篤さん

⑤合唱 来場者、北星学園女子中等高等学校、札幌日本大学中学高等学校
高校生実行委員会

【2日目夜公演】

日 時／2025年3月30日(日) ストリートピアノ 18:20～18:40

開演 18:45 終了 20:30

会 場／札幌中央区民センター区民ホール

来場数／200人

内 容／①詩の朗読 高校生実行委員会

②主催者挨拶 皆川舞奈実行委員長

③共催者挨拶 須間等連合北海道会長

④被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

⑤高校生による演奏、合唱

ピアノ演奏・北星学園女子中等高等学校、合唱・市立札幌旭丘高等学校

⑥プロの演奏 ピアノ・豊口健さん、サックス・池田篤さん

⑦合唱 来場者、北星学園女子中等高等学校、市立札幌旭丘高等学校

札幌日本大学中学高等学校、高校生実行委員会

【3日目昼公演】

日 時／2025年3月31日(月) ストリートピアノ 11:30～12:00

会 場／札幌市役所ロビーホール

来場数／250人

内 容／①主催者挨拶 皆川舞奈実行委員長

②北海道被爆者協会挨拶 金子廣子理事

③札幌市長挨拶 秋本克広札幌市長

④実行委員会による平和宣言

⑤高校生による演奏

藤女子中学高等学校

⑥プロの演奏 ピアノ・豊口健さん、サックス・池田篤さん

⑦合唱 来場者、藤女子中学高等学校、札幌日本大学中学高等学校

高校生実行委員会

⑧被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

【3日目夜公演】

日 時／2025年3月31日(月) ストリートピアノ 16:30～17:20

開演 17:30 終了 18:30

会 場／さっぽろ創世スクエア オフィスエントランス1階

来場数／150人

内 容／①高校生による演奏

藤女子中学高等学校

②プロの演奏 ピアノ・豊口健さん

③HTBアナウンサーによる詩の朗読

森唯菜さん

④被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

⑤合唱 来場者、森唯菜HTBアナウンサー、藤女子中学高等学校

札幌日本大学中学高等学校、高校生実行委員会

⑥主催者としてのお礼 皆川舞奈実行委員長

【4日目昼公演】

日 時／2025年4月1日(火) ストリートピアノ 11:00～12:30

13:30～14:30

コンサート1ST開演 12:30 終了 13:30、2ST開演 14:30 終了 15:30

会 場／新千歳空港2階センタープラザ

来場数／500人

内 容／①主催者挨拶 皆川舞奈実行委員長

②被爆ピアノ紹介 矢川光則さん(被爆ピアノ管理者)と高校生実行委員会

③プロの演奏 ピアノ・豊口健さん、三線・TONNYさん

④合唱 来場者、札幌日本大学中学高等学校、高校生実行委員会

⑤主催者としてのお礼 皆川舞奈実行委員長

※同時通訳により開催。

